

様式第1（第6条関係）

議会報告会等実施報告書

開催日時	令和6年10月12日（土） 午後2時00分～午後3時45分
開催場所	健康文化センター4F ほほえみホール
出席議員	15名
参加者数	37名
実施内容	議会報告会 令和6年度大口町議会報告会 「こんにちは 大口町議会です」 第1部 議会報告会 第2部 防災講座 題目「大口町の災害の歴史」 第3部 議員との座談会 テーマ「防災」
	意見交換会
要望・提言等	別添のとおり
その他特記事項	

令和6年10月24日

大口町議会議長 江口 昌史 様

上記のとおり報告します。

議会広聴広報常任委員会委員長 松本 佳子

令和6年度 議会報告会「こんにちは 大口町議会です」開催報告

1. 実施の目的

認知度の向上及び関心惹起

- ・町民のみなさまに、議会を知り関心をもってもらう。
- ・みなさまの声を町政にお届けできるよう力を尽くす。

また、報告会の構成として報告会だけでなく、講座や座談会を設け、議員の報告中心から町民のみなさんの声を聴く形に重きをおく。

2. 開催日時・場所

令和6年10月12日（土）午後2時～午後3時45分
健康文化センター4F ほほえみホール

3. スケジュール

- (1) 開会あいさつ
- (2) 議長あいさつ
- (3) 第1部 議会報告会
 - (ア) 議会の概要
 - (イ) 総務建設常任委員会報告
 - (ウ) 文教福祉常任委員会報告
- (4) 第2部 防災講座
 - (ア) 題目 大口町の災害の歴史
講師 大口町歴史民俗資料館 西松賢一郎学芸員
- (5) 第3部 議員との座談会
 - (ア) テーマ …「防災」 参加者を6つのグループに分け、意見を伺う。
- (6) 閉会あいさつ

4. 開催結果

- ・参加者数：報告会全体としては、37名参加。議員は15名全員が出席。

5. 総括・所見

実施後アンケートの結果、全体として、比較的好意的な評価であったが、課題となるご意見をいただいた。次回開催については、今回の実施結果を踏まえ、引き続き検討の上、改善が必要。また、参加者年齢層については、60代以上が半数以上を占めており、より幅広い年齢層、特に若い世代の参加促進のため、開催日程含め、企画段階にて検討する必要がある。

参加者からのご意見については、議員の一般質問や委員会等の政策提案につなげるべく、調査・研究を行う。

【補足資料】参加者からの主な意見等

防災備蓄について

1	大口町として備蓄は何日分あるのか。また、それは、何人規模を想定した備蓄か。
2	大口町が何を持っているかがわからないので、個人として何を備えたら良いかがわからない。 「町として町民に出せる物は〇〇で、それは〇〇人分で〇〇日分のストックしかないの で、個人として〇〇を〇〇日分用意しておいてもらおうと良い。」 などを提示してもらおうと、個人として備蓄の目安が立てやすい。
3	避難所や災害時の備蓄情報などがどこを見ればよいかわからない。役場の公式ホームページのトップページに「防災情報はこちら」などのバナーを作って、そこをクリックすれば色々な防災関連情報が一覧で見えるページを作ってもらおうと良いかと思う。
4	東京から大口町に来たが、備蓄に関しては、近所の人から「公助」をあてにせず「自助」の努力で備えておかなければならない、と言われている。実際どうか。
5	行政区ごとに非常食などの備蓄を充実させてもらえないか。
6	高齢者など、避難所まで行くことが困難な人たちもいる。そのような方たちのために、イベントなどの機会に備蓄用品を配布するというのはどうか。
7	自宅で避難生活を送るとなった場合、どれくらいの備蓄が必要か。
8	防災準備について 防災グッズの中に簡易トイレはあるか。
9	災害を止めることはできないが、日頃からの備え、訓練、人とのつながりをつくる取り組みから減災が大事であると思う。
10	普段のときは、防災は無駄なコストと思うが、いざ災害というときには必要。そのことを、町民のみなさんが知らないと思う。

防災広報について

1	大口町の防災対策について、初めて知ったことが多かった。もっと町民に周知・PRをして欲しい。
2	「広報おおぐち」は見ているので、防災について、同じ内容で良いので、知っておかなければならない内容を、毎号掲載して欲しい。そうすれば、どの号の広報誌をみても掲載されているという安心感が持てるし、何かあった時に、どの「広報おおぐち」だったかとか、探す必要はない。
3	高齢者には、LINE とか Facebook の情報を見てといわれても、細かい字の羅列で見る気がしないので、防災に関する冊子を作っていただき、町民に届けて欲しい。また、冊子の字は大きくしてもらい、高齢者が読みやすい工夫をして欲しい。冊子は、情報が古くならないよう、毎年改訂版を出して欲しい。
4	最新の情報を織り込んだ防災マップを新たに作成・配布してほしい。
5	線状降水帯が発生し木曾川が氾濫したりした場合を考えると、ハザードマップ各所を、もっと細かく表記する必要があるのではないか。
6	8年位前に大口町に来たが、防災無線の存在を、はじめて知った。そんなことすら教えてもらっていないので、新しく来た人には冷たい町だと思う。

避難体制について

1	避難所の場所は分かるが、道路の分断などでそこまで辿り着けない場合もあるのではないか。町には、その辺りまで考慮してもらいたい。避難所の前に一時退避できる場所を作ってもらえないか。
2	集会所の避難は、かえって危ないと言われているが、どうか。
3	避難所ではプライバシーが守るのが難しいと思うが、どうか。
4	日頃か訓練をやっていないと行動に移せないため、大口町全体で防災訓練を定期的に行っていただきたい。
5	小さな子どもは、災害が起きた時 初めての体験でストレスになる恐れがあるため、一度、実際の体験の必要性を感じる。小さい子どもを連れたサバイバルお泊り会等があったら良いと思う。車中泊等も体験させられたら良い。
6	住民が数十人の単位で、一度は実際の避難生活を体験してみたい。
7	災害が起きた時、本町は受け入れ体制はどうか。体制をもっと強化・整備していただきたい。

高齢者・障がい者対応について

1	災害時、高齢者や障がい者などの方々のリストを作って、そういった人たちを助ける仕組みが必要ではないか。近所の方が声をかけるとか。
2	平日家族が働きに出て障がい者を施設に預けている場合の避難経路と避難場所についての体制は。

その他（消防団について）

1	大口町各分団には小型ポンプがある。いざというとき、活動できる人、ポンプを使える人を増やして欲しい。知識として行き渡れば、有効。潜在的に協力者はいると思う。地域の防災力になると思う。
2	そもそも防災の関心が薄い。防災訓練は、自らの意思の参加者が少なく、意識が低い。消防団が何をしているかを知らない。
3	仲間の声掛けや、兄弟に誘われて入団する人が多い。報酬額の値上げには、あまり魅力を感じない。報酬を上げるのみでは、ダメ。住民の「ありがとう」の声、とても励みになる。
4	消防団員が3人しかいない。小型ポンプ操法大会に出場するためには、最低4人必要なので、大会に出場できない。何とか消防団員を増やしたい。
5	名簿などが手に入らなくなったので、適齢期の年齢の人を勧誘できない。消防団が必要であれば、応援してくださる方もいるのではないか。
6	他の市町では、小型ポンプ操法大会がなくなったあとのほうが、団員が増えたとの声を聞く。しかし、大会はやらなくても、家族などに見てもらおうのは団員の励みになる。
7	大会での活躍状況を、取り上げて欲しい。キツイ、大変ではなく、消防団に入ると良い点もアピールしていただきたい。

【補足資料】 当日の会場の様子

議会報告会



防災講座



議員との座談会の様子

